

岐阜県院内感染対策相談窓口

Q&A 集

<令和2年度>

令和3(2021)年3月31日

岐阜県健康福祉部医療整備課

岐阜大学医学部附属病院生体支援センター(NST/ICT)

★目次

Q1	ボトックス注射に使用した器材について	1
Q2	次亜塩素酸ナトリウム 0.008%含有製剤の 環境消毒効果について	2
Q3	インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンの新型コロナウイルス 感染症対策としての意義について	3
Q4	術前 PCR 検査について(COVID-19)	4
Q5	コロナ禍での臨床実習生受け入れについて	5

Q1 ボトックス注射に使用した器材について

当院泌尿器科で、過活動膀胱・神経因性膀胱の治療として、ボトックス注射をはじめます。その際、再生処理が必要な膀胱鏡セット、カメラヘッド、ライトケーブル等を使用しますが、再生処理が必要な器材の洗浄等の処理方法について、教えていただけますでしょうか(熱処理、次亜塩素酸が困難な器材を含みます)

A1

ボツリヌス毒素は、菌そのものではありませんが、感染症法上の「二種病原体等」に該当し、本来は厳密な管理が求められています。ボトックスは、製剤として承認されているほか、致死量と比べ極めて少量であるため、感染症法の適用から除外されているものの、承認条件として適切な管理、廃棄が求められています。このような背景から、添付文書には、本剤により汚染した際は 0.5%次亜塩素酸ナトリウム溶液により拭き取り・洗浄を行い、失活させるよう書かれています。

一方、今回のご質問のように、過活動膀胱・神経因性膀胱の治療においては、膀胱鏡のチャンネルから注射針付カテーテルを用いて膀胱粘膜に注入しますので、カメラヘッドやライトケーブルなどが本剤により直接汚染することは基本的にないように思います(もちろん、思わぬ形で汚染することがないように手技の確認や、普段からの配慮・意識は必要と考えます)。また、膀胱鏡自体は、本剤の使用の有無に関係なく、普段から高水準消毒薬による洗浄もしくは滅菌が行われますので、通常に対応で大きな問題はないと考えます。

Q2 次亜塩素酸ナトリウム 0.008%含有製剤の

環境消毒効果について

当地域の小学校より「教育委員会より、消毒用に学校でお使いくださいと、次亜塩素酸ナトリウムが 0.008%含まれている製品が届きました。通常よりも濃度が低いですが通常の使用方法で大丈夫ですか？」との問い合わせがありました。

当院の薬剤師が受けた質問ですが、当院では使用経験がなく、回答に困っています。製造会社の HP を見ると食品添加物であることなどが書かれています。安全で効果があるならば、医療機関でも使われてもよいと思いますが、耳にしたことがありません。どのように回答したらよいのか、ご教授下さい。

A2

当該製品の HP を見ると、確かに次亜塩素酸ナトリウムの濃度は 0.008%で、噴霧による使用なども想定されているようです。

まず、環境などの消毒に使用する場合の次亜塩素酸ナトリウムの推奨濃度は 0.05～0.1%程度とされていますので、本製品の 0.008%という濃度は相当低いこととなります。

一方、哺乳瓶などの「食」関連機材の消毒には、0.01%の次亜塩素酸ナトリウムが用いられており、0.008%という濃度だけをみればほぼ同等とも言えますが、通常は消毒液に 1 時間浸漬することが必要とされており、噴霧や清拭など作用する時間が短い場合は、効果が限定的と想定されます。

さらに、どの消毒薬を用いる場合も同様ですが、一般に環境消毒として消毒薬を噴霧で使用すると環境表面に消毒薬がかからない部分できてしまい不十分となるため、適切な消毒方法とはいえません。不織布などに適切な濃度の消毒薬を十分浸し、環境表面を清拭することが必要です。

以上のことより、当該製品は本来食品や調理器具における使用を原則としており、そのような状況でのデータにより認可されているものと思いますが、院内感染対策や環境消毒効果についてのデータはないと考えます。環境消毒には、臭いの問題はありますが、安価で効果が証明されている 0.1%の次亜塩素酸ナトリウムを使用して清拭する方が確実だと思いますし、アルコール(手指消毒薬ではないもの)による清拭も候補となると思います。

Q3 インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンの新型コロナウイルス

感染症対策としての意義について

インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチン接種を地域で奨励することにより、新型コロナウイルス感染症に対して直接的な効果は無いとしても疫学的な効果はありますか？

A3

ご質問の中にもあるように、インフルエンザワクチンおよび肺炎球菌ワクチンには、新型コロナウイルスへの直接的な予防効果はありません。一方、インフルエンザワクチンは年によって効果が異なるものの、高齢者を中心に、いずれも(特に併用で)肺炎やそれによる入院などを減少させることが証明されており、高齢者の定期接種となっていることはご存知の通りです。

「疫学的な効果」という意味が、ややはっきりしませんが、インフルエンザワクチンおよび肺炎球菌ワクチンの接種により有熱者や肺炎の患者数を少しでも減らせられれば、その分だけ新型コロナウイルス感染症を疑う場面が減ることにもなり、無用な混乱や医療資源の消費を避けることにつながる可能性はあるように思います。もちろん、上述したように、これらのワクチンは高齢者や基礎疾患を持つ方への有用性・医療経済上のメリットが証明されたものですので、新型コロナウイルス感染症と切り離しても、接種を奨励すべきものであり、現在定期接種となっていない13価肺炎球菌結合型ワクチンなどへの公費補助も望まれるところと考えます。

Q4 術前 PCR 検査について(COVID-19)

以前、大学では、手術全例PCR検査を行っていたそうですが、すべて陰性であったため、中止したとお聞きしたように記憶しております。市内の市中感染状況の変化から、現在は、どのように対応されていますでしょうか。東京では、無症状の患者がまぎれこむ危険性をニュースで見ました。また、術前の PCR をおこなうべきとなった場合、当院のような私立病院は、どこに依頼するのが妥当かご意見をいただければ幸いです。

A4

術前 PCR の件ですが、患者数が多い関東や関西では、今春以降、多くの病院が術前検査を継続していると聞いております。当院におきましても社会での感染者数の増加を受け、8月中旬より全麻手術を受ける患者に対し再開しております(検体は唾液に変更しております)。ただ、ご存知のように PCR には感度の問題があり、14日以内の背景リスク(本人だけでなく家族等の背景リスクを含めて)の評価も重要と考えますし、全ての患者さんに対し“新たな標準”として感染対策の強化(確実な遵守)は必須であり、これらを実施している中での意義やコスト(労力)パフォーマンスについては議論のあるところ。一方、新型コロナウイルスに感染している状況で手術を受けると、患者さん自身の予後悪化につながるリスクも指摘されており、術前のリスク評価としても検査が必要との意見もあります。

また、少し視点は変わりますが、そもそも術前に感染患者を見つけることが重要というよりは、患者さんが術前に感染しないことが最も大事(医療者にとっても患者さんにとっても)だと考えております。そのため、当院では手術(入院)予定が決まったら、術前/入院前 14日間に患者さん(ご家族を含めて)ご自身が守るべき注意点の説明用紙と健康チェック表を患者さんにお渡しし、遵守していただくようお願いしております(こちらは術前 PCR を再開する前から行っております)。

検査依頼機関については、現実的には外部委託(対応可能な大手検査会社)が基本になると考えますが、会社によりコストや検査所要時間等も異なるため、それによって運用も変わってくると考えます。参考にするとすれば、上述したように関東や関西では、一般病院の中にも多くの病院で術前検査をしていると推察いたしますので、心臓外科領域での運用を含め、それらの地域のお知り合いの先生がおられれば、その方にご確認いただくのがベストかと思えます。ちなみに、院内で迅速に遺伝子検査ができる機器も複数あり、本邦でも認可されつつあります。

Q5 コロナ禍での臨床実習生受け入れについて

病院への各職種の実習生の受け入れについて悩んでおります。薬剤師、理学療法士、看護師など様々な学校から実習生を受け入れておりますが、各学校も実習の受け入れ可否の判断は、各施設にゆだねるとのことです。どのように判断することが正しいのかわかりません。今後のコロナ対策として実習生受け入れについてご教示いただきたいです。

A5

社会全体で流行・蔓延がみられていますので、一般の診療においては病院内が特に危険というわけではなく、本来は臨床実習生も、職員、患者さん、見舞客、外部業者など、院内に立ち入る方すべて同じ形で対応可能と考えます。

別添の問診表を参考に健康チェックシートを作成し、実習日毎に提出させることでいかがでしょうか？この中に最近2週間以内の海外渡航や国内旅行の有無、多人数での飲食、カラオケなどリスクにつながる行動がなかったか、周囲の感染者、濃厚接触者、体調不良者の有無などを付け加えるとよいでしょう。

もちろんマスクの常用、手指衛生の徹底、昼食時の注意点、日常生活におけるリスク行動の回避などについて提示と配慮が必要であることは言うまでもありません。

令和2年11月12日

体調チェックシート

男女共同参画講演会 参加者 各位

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、男女共同参画講演会へご参加を頂く皆様の健康管理対策と万が一発症が確認された場合の対応を目的として、下記の設問にご回答いただきますようお願い申し上げます。

なお、このチェックシートにて取得しました個人情報につきましては、事務局で責任をもって1か月間保管させていただきます、その後は廃棄させていただきます。

一般社団法人

検温・ご回答日時	11月12日(木)
現在の体温	. °C

<ご質問>

現在の健康状態についてお伺いします。①か②のいずれかを選択し○をお付けください。

- 現在 咳の症状はありますか？
① ある ② ない
- 現在 鼻汁の症状はありますか？
① ある ② ない
- 現在 喉の痛みはありますか？
① ある ② ない
- 現在、鼻詰まりはありますか？
① ある ② ない
- 現在、嗅覚異常はありますか？
① ある ② ない
- 現在、味覚異常はありますか？
① ある ② ない
- 現在、全身の倦怠感はありますか？
① ある ② ない
- 現在、下痢の症状はありますか？
① ある ② ない
- ここ1か月くらい前から現在までに風邪症状はありませんでしたか？
① ある (熱 ・ 咳 ・ 倦怠感) ② ない

上記の記載に相違ありません。

お名前	
メールアドレス	
携帯電話番号	

岐阜県院内感染対策相談窓口
Q&A 集

＜令和 2 年度＞

2021 年 3 月 31 日 第 1 刷発行

編集・発行

岐阜大学医学部附属病院生体支援センター

〒501-1194 岐阜市柳戸 1 番 1

TEL : 058-230-7246 FAX : 058-230-7247

e-mail : kansen@gifu-u.ac.jp

なお、本記録集は岐阜県健康福祉部医療整備課の委託による
受託研究「院内感染対策研究事業」の助成によって作成された。